

OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社STVラジオ 様

OnAir 3000-18F



第3スタジオをOnAir 3000で更新



株式会社STVラジオ 技術部 上村 敦史

STVラジオでは、生放送用スタジオ×2、録音番組用スタジオ×2、CM専用スタジオ×1を所有しています。ここ10年ほどスタジオ更新がなかったのですが、2年前生放送用のVスタジオを更新したの続き、今年度は録音で使用している第3スタジオを更新しました。

このスタジオは主に、STVラジオの名物深夜番組『アタックヤング』の録音スタジオとして40年以上前から使用されていたスタジオで、松山千春はじめ、KAN、山崎まさよし、田中義剛など、数多くのミュージシャンがこのスタジオのマイクの前に座り、北海道の若者相手に人生の喜怒哀楽を共に語り合ってきた伝統あるスタジオです。

今回の更新にあたっては、特別奇抜なシステム導入はなくパーソナリティーも操作するディレクターも過去の伝統を引き継ぐべく、心あたまる番組創りに集中できるよう、シンプルで操作性の良い音声卓という事でOnAir 3000が選定されました。

アンケートで仕様作成

昔は技術がついて録音していたこともありましたが、随分前から録音だけでなく生放送もスタ

ジオには技術部員がつかなくなっています。

音声卓は制作プロダクションのオペレーションに頼っているので、違和感なく操作できるように仕様作成にあたってアンケートを取ってどうしても必要な機能、さほどこだわりのない機能など調査して切り分けし、無駄なく充実した機能のみ可能となるような音声卓にしました。

最小限のカスタマイズ

将来の汎用性維持と、費用を抑えるために外付けパネルや制御系の作り物をせずになんとか既成の機能の中で希望を叶えることが出来なかつた工夫していただいた結果、理想的な音声卓になりOnAir 3000のパフォーマンスの高さを見せつけられました。

具体的には、CR（コントロールルーム）だけでなくアナブース内のモニター音声切り替えもワンタッチで出来るようメインスクリーンのタッチパネル操作ではなくモニタリングモジュールの空いているボタンに割り付けて頂いたり、OSC（1kHz）の基準信号もスタジオ貸し出しの際に頻繁に使用するフェーダーアサインモジュールのボタンに「L」「R」「LR」と割り付けて頂いたり、とても便利に使用しています。

トレーニングいらずの運用開始

OnAir 3000の良さとして、すべて直感的に操作できる事が嬉しいポイントです。工事完成後我々技術部員は細かい設定方法までトレーニングを受けましたが、制作スタッフへの説明は、使用にあたっていくつかの約束事を指導するだけでそのまま通常運用開始としました。

約束事とは使用開始前に、SNAP SHOTに登録されている録音番組用のデフォルト設定を必ず呼び出してから作業開始する事です。モニターの切り替えボタンやTBボタンの所には見て分かるように説明の付箋を貼りましたが、運用開始から約1か月経過した現在、制作スタッフも全員数回はスタジオを使用したようなので付箋はほとんど剥がしています。

まとめ

AMラジオ社としては、「ワイドFM」「シェアラジオ」「タイムフリー聴取」などいろいろな動きがある中このタイミングで、高音質で多機能な音声卓更新が出来てうれしく思っています。

この更新にあたり、スチューダー・ジャパン・ロードキャスト様、クリエイティブネクストデザイン様、工事を担当して下さいました映像様ほか関係したすべての皆様に心から感謝申し上げます。